

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079200285
法人名	株式会社ケアシステム
事業所名	グループホーム香春
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡香春町香春776-2 (電話) 0947-32-7700

評価機関名	株式会社アーバンマトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年12月20日	評価確定日	平成20年1月22日

【情報提供票より】(平成20年11月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12人, 非常勤 2人, 常勤換算 13.0人

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)3,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,000円				

(4) 利用者の概要(11月19日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	1名	要介護2	8名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	64歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐柳医院 / 中畑歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

香春岳ふもとの昔の面影が残る城下町通りに(株)ケアシステムが運営するグループホーム香春が立地している。近隣には学校や香春神社・石鐘神社もあり、時折野鳥の姿もホームで見ることが出来る。平屋建てで2つのユニットは廊下でつながっているが、玄関は別でユニット独自の活動を行いながら日常的にも交流もできる構造となっている。法人のグループホーム香春に対する理解は高く、入居者が家庭的な雰囲気与生活できるように配慮がなされている。職員は日常的にユニット間で交流し、双方の入居者の状態把握に努めている。自立した暮らしを送るためのリハビリ等に力をそそぎ、日常生活は個別のペースで穏やかに送られており、自分からの要望等を表明する事が困難な入居者に対しても家族からの情報を収集し、好みの活動を複数提案し、その中から選べるように準備する等個別に対応したケアが実践されている。入居者一人ひとりの思いを大切に受けとめ、毎日ゆったりと過ごせるように心がけ、日々の暮らしを支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、地域密着型サービスとしての理念、市町村との連携、権利擁護に関する制度の理解と活用、職員を育てる取り組み等が課題となっていた。については事業所独自の理念をつくりあげているが、これまでの理念に加えて全職員で協議を行い地域密着型のサービスの視点を加えた理念を作り上げてほしい。についてはホーム側から行政担当者と交流を図り、ホームに関する理解・関心を高めたり、行政との協議を行うなど取り組んでいる。については職員が勉強会を通じて理解を高めたいと取り組んでいる段階である。引き続き、検討中のものであるが、ミーティングにて管理者・職員は改善項目をホームの課題として取り上げ、前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を受け、管理者・職員は、ミーティングにて改善項目をホームの課題として取り上げ、前向きに取り組んでいる。また、自己評価に取り組み、職員間にも気づきが生まれ、外部評価の意義を理解し、ホームの質の向上に役立っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催され、地域や家族の方々の参加のもと懸案事項について、その過程を報告し意見交換を行っていることが議事録から確認できた。外部評価を運営推進会議の議題として取り上げる等、グループホームの運営面など透明性の確保にも評価を活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には面会時を利用して暮らしぶり等近況報告を行っている。毎月の請求書の送付時に金銭出納帳(写)、職員からの手紙・スナップ写真等を同封している。急を要する場合等必要に応じて電話連絡を行い、家族とのコミュニケーションを図り、意見や意向を言っていたるように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りに参加したことがきっかけとなり、地域の人達が遊びに来たり立ち寄ってくれるホームに取り組んできた。今では町に買い物に行っても気軽に声をかけてもらうようになった。また、入居者の面会に近隣の方が気軽に訪れるようになり、食事会や行事への参加等で交流も増え、地域との連携が高まってきている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は玄関ホール・フロアに掲示しており、事業所独自の理念をつくりあげており、その理念のもとユニット毎の基本方針をつくりあげている。平成18年度の法改正により地域密着型サービスの主旨をふまえた理念が求められ、地域の中で暮らしたるに視点をいた理念の検討が求められる。		地域密着型サービスの主旨をふまえ、事業所独自の理念をつくりあげていくことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	2ユニットでそれぞれの特徴も活かし、理念に基づきユニット毎の基本方針を掲げ、日々唱和している。入社時を始め、新人や若い職員には理念を共有できるまで繰り返し、勉強会・研修等の折にふれ説明を行っている。理念はホームの見やすいところに掲示し、入居者及び家族等にその理念を伝え理解してもらうように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに参加したことがきっかけとなり、地域の人達が遊びに来たり立ち寄ってくれるホームに取り組んできた。今では町に買い物に行っても気軽に声をかけてもらうようになった。また、入居者の面会に近隣の方が気軽に訪れるようになり、食事会や行事への参加等で交流も増え、地域との連携が高まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を受け、管理者・職員はミーティングにて改善項目をホームの課題として取り上げ、前向きに取り組んでいる。また、自己評価に取り組む職員間にも気づきが生まれ、外部評価の意義を理解し、ホームの質の向上に役立っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催され、地域や家族の方々の参加のもと懸案事項について、その過程を報告し意見交換がなされていることが議事録から確認できた。外部評価を運営推進会議の議題として取り上げる等、グループホームの運営面など透明性の確保にも評価を活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者の訪問時や申請代行等、担当者と関わる機会を多く持つように努めている。その都度、ホームの考え方・運営や現場の事業等を伝えている。随時、相談し、より良いサービス提供を心がける姿勢がみられるが、更なる連携を期待したい。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の利用は該当する入居者がいないため、今後、理解を高めていきたいと考えている。権利擁護は、入居者や家族へ必要あるなしに関わらず、日頃より情報提供に努めることが求められており、いつでも情報提供できる体制が求められる。		今後、必要な人には職員が説明できるように研修を重ね入居者の支援へ繋げてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には面会時を利用して暮らしぶり等近況報告を行っている。毎月の請求書の送付時に金銭出納帳(写)、職員からの毎月の行事のスナップ写真等を同封している。急を要する場合等、必要に応じて電話連絡を行い、家族とのコミュニケーションを図っている。パンフレット・ホーム便り・評価結果等は事務所に設置されており誰でも見ることができる。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関には意見箱を設置し、気軽に意見を引き出せるように働きかけている。出された意見・要望等はミーティングで話し合い運営の改善に反映させている。重要事項説明書に市町村窓口を記載し玄関に掲示している。運営推進会議が家族の意見の聴取の場として活用されている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新たな採用があったり、職員の異動の際には、入居者が混乱しないように馴染みの関係に配慮した支援を行っている。退職時や新人が入社する場合は、きちんと紹介し十分な引き継ぎの期間はベテラン職員がカバーする等十分に配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用条件として職員は性別・年齢などを理由に採用対象から排除することはない。職員の意見や考えを参考に資格取得の支援や研修参加の機会拡大に努め、生きがいをもって勤務できるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権を尊重し、内部研修でも「認知症」について取り組み、常に敬意の気持ちを持ち、職員が支援できるように伝えている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	採用時には、新人研修等によりホームの理念等を説明している。専門的知識等の研修が必要な場合は、フォローアップ研修を計画し実施している。内部では、働きながらのOJTにての指導に取り組んでいる。		今後も研修に力を入れられ、その結果をサービスの質の向上に結びつける努力が期待される。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近隣の施設やグループホームと情報交換・訪問等を行っている。日常的に電話等で業務上の相談や情報交換を行ったり、気軽に行き来し合える関係を築いている。		関連の事業所等の交流は運営者は機会も多いが、質の向上のためには職員間の交流も取り組んでいただきたい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前に状況を把握し、何度か訪問し関係づくりを行い、戸惑いや孤立感がないように職員が接する時間を多く持つようにしている。不安があれば職員が話し相手になり、場の雰囲気づくりを心がけている。また、ホーム見学は随時可能で体験入居等も可能である。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	何よりも入居者の人格を尊重し、プライバシーを大切にするという信念のもとに家族のように自然に対応できるようにしている。入居者ができる範囲での役割を果たしていただき、お互い支え合いながら暮らしていける関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	本人の生活歴・生活習慣・経験等を話す機会を多く持ち、思いや意向の把握に努めている。ADLや健康状態・本人・家族の要望等記載され、本人本位のニーズの把握に努めている。		アセスメントについては必要時に応じてセンター方式の活用を検討するなど期待したい。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族との接点を持ち、意向や状態・生活歴を把握し、必要に応じて医師や看護師・関連施設等と連携しながら、入居者の望ましい生活像を目標におき計画書作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画に実施期間を明示し、期間毎に見直しを行っている。また、状態変化に応じて見直しを行っている。また、ミーティングにおいてはサービス状況の見直しやモニタリングを行っている。家族とは面接にて意見や要望を把握し計画的に取り入れている。また、計画は説明し確認・署名をいただいている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎(買い物・近隣訪問・友達訪問)等を含め、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医については、本人と家族の希望を大切にしている。受診については、家族の対応が困難な場合は、求めに応じて職員が同行している。入居者の状態の把握は担当看護師により丁寧な連絡が行われている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化に伴う意思確認書(看取りについての事前確認書)を作成し、ホームが対応し得る最大のケアについて説明や終末に対する対応指針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合い、状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いにそって支援できるように取り組んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人情報については、使用目的や内容を文書により明確にし、同意書を作成している。また、言葉かけや対応・入居者の自由な暮らしに配慮し支援している。記録に関しては、日々のケアやサービス提供の際に必要な最小限のものをスタッフルームで管理し、その他は事務所にて鍵をかけ保管している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	1日のスケジュールは、特に定めず体調へ配慮し、その日の入居者の意向や職員との話し合いで買い物・散歩等柔軟に対応し、ゆったりとした暮らしの流れを大切に支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者と職員と一緒に食事の準備や買い物に出かけ、調理や片づけを行っている。職員も同じテーブルで食事を取り、穏やかな雰囲気ですべてを楽しみ、会話の中で次のメニューを決めるなど食事を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	健康状態のチェックにより、入浴可否の見極めを行い、個別入浴を行っている。入浴時間の長さ・回数時間帯は、入居者の意思等を優先し対応している。希望があれば意向にそった時間対応により入浴を支援している。また、限られた居住空間を工夫し、プライバシーに配慮した支援を行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	ホーム内の掃除・洗濯たみ・調理手伝い等、入居者のその日の気分によって無理なく役割をもって暮らしていただくように、経験や知恵を発揮する場面をつくっている。遠出の外出や地域の行事参加等の楽しみごと入居者と相談し、参加を楽しみにしていただくように取り組んでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	本人の気分や希望に応じて積極的に近くの神社への散歩・近隣訪問等にも出かけている。買い物は近くに肉屋・魚屋があり、日常的に誰かが職員と一緒に出かけている。年内の行事計画も立案され、個人の習慣や楽しみに合わせて季節的な外出・ドライブ等を取り入れ、ホームに閉じこもらない暮らしを支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は「鍵をかけないケア」について理解しており、居室や玄関は開錠され、またユニット間の行き来も自由に行える環境を提供している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	自主訓練を年に数回定期的に行っている。近隣にも訓練参加の働きかけを行っている。対応マニュアルを作成し、飲料水等の備蓄もある。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養バランスや水分摂取量は、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。食事及び水分の摂取量については、記録(チェック表)を取り、一人ひとりの状態把握に努めている。月初めには、体重測定を実施し、健康管理に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	壁には写真や入居者と職員の手作りの作品が飾られ、季節感を演出する工夫が凝らされている。ホールからは台所が見渡せ食事準備の音や香りを通じて生活感を実感できる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	本人の好みや慣れ親しんだ調度品・絵画が持ち込まれている。使い慣れた生活用品を持ち込むことができ、安心して過ごせる工夫がなされ、入居者一人ひとりの住まいとなっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			